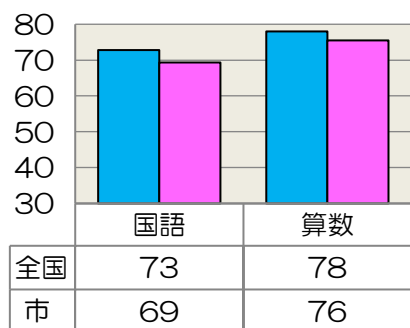
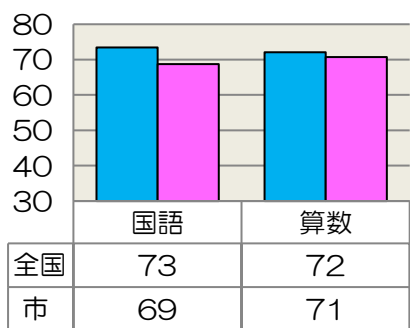


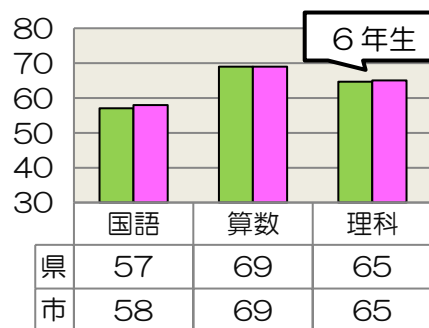
【小学3年生】市学力



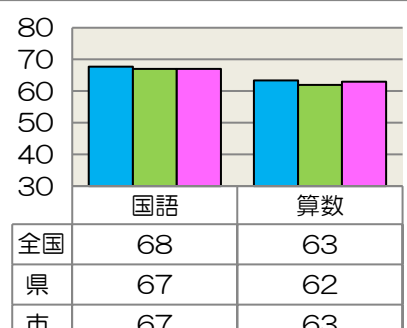
【小学4年生】市学力



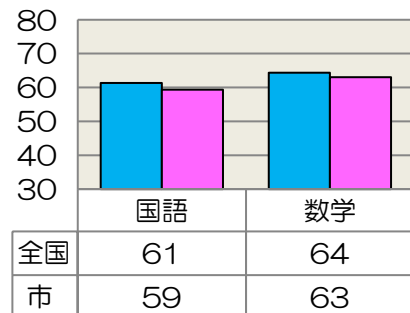
【小学5・6年生】県学力



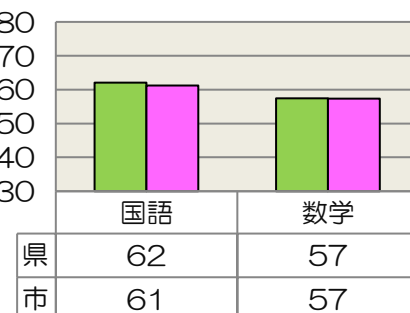
【小学6年生】全国学力



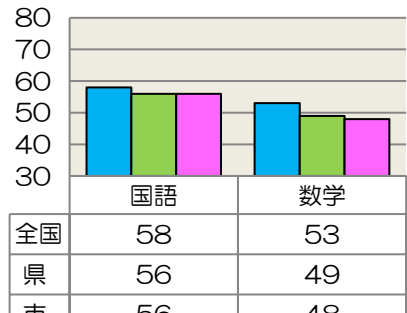
【中学1年生】市学力



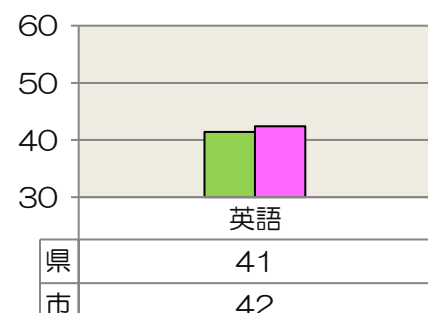
【中学2年生】県学力



【中学3年生】全国学力



【中学3年生】県学力



【実施日】

国語科・算数科/数学科・理科・英語科：令和6年4月18日（木）

【各学力調査の対象学年・教科】

◇長崎市学力調査

小学3・4年生（国・算）

中学1年生（国・数）

◇長崎県学力調査

小学5年生（国・算）

小学6年生（理）

中学2年生（国・数）

中学3年生（英）

◇全国学力・学習状況調査

小学6年生（国・算）

中学3年生（国・数）

※結果は、正答率（％）で表記



全国学力・学習状況調査結果の概要と改善の方向性

1 学力調査結果の概要

（1）良好な項目

- 小学校国語科では、目的や意図に応じて話す内容を選択したり検討したりする問題において全国及び県平均正答率を上回り、成果が見られる。中学校国語科では、「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」問題において全国及び県平均正答率を上回った。
- 小学校算数科では、目的に応じて収集したデータを分類整理し、表やグラフを用いて、身の回りの事象について考察する問題で全国及び県平均正答率を上回る成果が見られる。中学校数学では、問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題に成果が見られる。また、二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題に成果が見られる。
- 小学校理科では、全ての領域で県の平均正答率をやや上回っており、学習内容の定着が図られており、成果が見られる。
- 中学校英語では、「与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある文章を書く」問題で、県平均正答率を大きく上回る成果が見られる。

（2）課題がある項目

- 小学校国語科では、漢字を文の中で正しく使うことに関する問題において正答率が低い。無解答率も高く、課題が見られる。中学校国語科では、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」問題など、複数の「記述式」の問題において課題が見られる。
- 小学校算数科では、示された場面を解釈し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察する問題に課題が見られる。中学校数学では、複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題や事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題に課題が見られる。
- 小学校理科では、生活体験を基に身のまわりの現象について根拠のある予想や仮説を発想し、表現する問題に課題が見られる。また、メダカ・ヒト・植物の成長を比較する問題の平均正答率が県の値より、やや低いことから各単元の学びを関連付けて考えることに課題が見られる。
- 中学校英語では「日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する」ことに課題が見られる。

2 児童生徒質問紙調査（生活習慣や学習環境等の調査）の結果の概要

（1）良好な項目

- 「基本的生活習慣」の「起床」「朝食」「就寝」の項目において、小中ともに全国平均を上回った。小・中ともにすべての項目で8割を超えており、概ね良好である。
- 「自分にはよいところがある」「先生は、よいところを認めてくれる」の両項目において小・中ともに全国平均を上回っている。教師の適切な支援や声掛けが子どもの自己肯定感を高めている。
- 「将来の夢や目標をもっている」「いじめはいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」の項目において、小・中学校ともに全国平均と比べて高く、良好である。
- 「授業でICT機器を使用している」の項目において、週3回以上使用する割合は、全国平均を小学校で10ポイント以上、中学校で7ポイント以上上回っている。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」の項目において、小学校は全国平均と同じ、中学校は全国平均を上回った。

（2）課題がある項目

- 「家庭学習」の項目において、小学校では「1時間以上」の割合が全国平均を上回っているが、中学校では「2時間以上」の割合が全国平均を大きく下回っている。また、「自分で学び方を考え、工夫する」の項目においても中学校では全国平均を下回っている。
- 「新聞を読んでいますか」の項目において、「読んでいない」の割合が小学校で75ポイント、中学校で80ポイントを超えており、全国平均よりも新聞を読む児童・生徒は少ない。
- 「国語の勉強が好き」の項目において、小学校が全国平均と同じだが、中学校は下回っている。「算数（数学）の勉強が好き」の項目においては、小・中ともに全国平均を下回っている。
- 「授業以外に1日あたりどのくらい勉強のためにICT機器を使っているか」の項目において、小・中ともに「30分より少ない」と答えた児童・生徒の平均正答率が最も高い。また、小・中ともに「1時間以上」では、市の平均正答率を下回っている。

3 改善の方向性

- ①基礎・基本定着のための方策
- ②課題改善のための授業づくり
- ③家庭学習の習慣化と質的向上
- ④夢や目標に向かって挑戦する力の育成
- ⑤チームで取り組む学力向上

- ⇒（例）一人ひとりの弱点を克服できるような個に応じた適切な指導やAIドリル等を用いた学習
- ⇒（例）児童・生徒が、課題を自分事として捉え、主体的に学習に取り組む態度を育む授業づくり
- ⇒（例）発達段階に応じた課題の質と量を見極め、自主的な家庭学習の習慣を確立する取組
- ⇒（例）小学校からのキャリア教育の充実や体験活動を重視した取組
- ⇒（例）全職員が事項の課題を理解し、「学力向上プラン」「校内研修」「研究授業」等を活用する取組

学校・家庭・地域が一丸となった継続的な取組推進